

福岡医療短期大学 保健福祉学科

「入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）」

「教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）」

「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

本学科は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める人材を育成するために、次に掲げる「知識・理解・技能」や「思考力・判断力・表現力」及び、「態度・主体性」を備えた人を求めます。

- 1 入学後の修学に必要な基礎学力としての知識・理解や実技を行う能力を有している。（知識・理解・技能）
- 2 物事を多面的かつ論理的に考えることができる。（思考力・判断力）
- 3 自分の考えを的確に表現し伝えることができる。（表現力）
- 4 対話を通して、相互理解に努めようとする態度を有している。（態度）
- 5 介護福祉に深い関心を持ち、社会に積極的に貢献する意欲がある。（主体性）

本学科では、複数の受験機会と入試方法を提供することで、幅広く人材を受け入れています。本学の入学者選抜の基本方針は以下のとおりです。

（入学者選抜の基本方針）

○書類審査

提出書類によって、基礎学力（知識・理解）及び学修意欲（主体性）を評価します。また、生活態度、課外活動や社会貢献及び社会人としての経験（態度）についても評価します。

○小論文

文章作成・表現能力、介護福祉士資格取得への意欲、介護福祉士にとって大事な優しさや思いやりなどを備えているかを評価します。

○面接

質疑応答を通じて総合的な思考力、判断力、表現力を判断するとともに、本学で学ぶ意欲、介護福祉士としての志、介護福祉に対する意欲や関心、コミュニケーション能力（技能）、人間性等を評価します。

○学科試験

大学での学修に必要な基礎学力が身についているかを判断するために高等学校等での学習の達成度を評価します。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

本学科では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた目標を達成するために、福祉専門職としての自覚と倫理観を持ち、利用者の自立（自律）に向けた支援を実践できる介護福祉士の養成を目的にカリキュラムを編成しています。1年次から2年次へと体系的・順序性を考慮して「基礎科目」、「人間と社会」、「介護」、「こころとからだのしくみ」、「専門発展科目」にわけてカリキュラムを編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を開講します。カリキュラムの体系を示すために、科目間の関連、学修の段階や順序等を表した番号をふるナンバリングを行い、カリキュラムの構造をわかりやすくシラバスに明示しています。

（教育内容）

1 「基礎科目」（知識・理解、表現力、態度・主体性）

豊かな教養と人間性の獲得のため、現代社会における広範な問題の理解のための基本的視点や考え方を体系的に学修します。社会や他者のために責任ある行動がとれる能力の育成を図ります。さらに、それらの学びを生かし、自らのキャリアを考えるキャリアデザインの科目を学びます。

2 「人間と社会」（知識・理解、思考力・判断力・表現力、態度）

介護を必要とする者に対する全人的な理解や尊厳の保持、介護実践の基盤となる教養、総合的な判断力および豊かな人間性の育成、現代社会における新たな問題発見や解決をすることができる能力の獲得を図ります。

人間としての尊厳の保持と自立（自律）した生活を支える必要性について理解し、社会保障の制度、施策についての基礎的な知識を修得します。他者への情報の伝達に必要な基礎的コミュニケーション能力の育成を図ります。

3 「介護」（知識・理解・技能、表現力、態度・主体性）

介護サービスを提供する対象や場によらず、あらゆる介護場面に汎用できる基本的な介護の知識や技術を修得し、自立支援を実践できる能力の育成を図ります。

個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者や家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する能力を身につけます。他科目で学修した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力の獲得を図ります。

4 「こころとからだのしくみ」（知識・理解、思考力・判断力、主体性）

介護実践に必要な知識という観点から、人体の構造や機能について理解し、介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について学修します。

心理的社会的なケアについての多様な情報や知識を論理的に分析、考察することができる能力の獲得を図ります。本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点や考え方を修得します。

5 「専門発展科目」(知識・理解・技能、表現力、態度・主体性)

高齢者の生活の質(QOL)の向上を図るため、キャンパス内外の介護老人保健施設、介護老人福祉施設、医療機関等と連携した演習や実習により、口腔ケアならびに医療的ケア等に関する知識と技術を修得します。

(教育方法)

- 1 主体的な学びの力を高めるために、すべての領域においてアクティブ・ラーニングを取り入れた教育方法を実践します。(思考力・判断力、態度・主体性)
- 2 教育効果を上げるために、シラバスに学修内容や準備学修の項目を設け、ホームワークやレポートの整合性や連続性を図ると共に、形成的評価のための学期中のフィードバックを行います。(知識・理解)
- 3 目標、記録、評価の総合的ツールであるポートフォリオを2年間かけて作成し、自己の学生生活を自分自身で管理し、「ふりかえり」を行います。(態度・主体性)
- 4 介護福祉士の国家資格に必要な専門的知識や能力確認のために、基礎強化演習、介護福祉演習、外部テストの受験による自己学修の推進や結果の継続的なモニタリングを行います。また、学科教員による模擬試験や国家試験対策のための取組を行い、1年次から段階を追ったプログラムを実施しています。(知識・理解)
- 5 介護実習は、指導教員および実習先施設指導者からその現場における助言を受けながら知識や技能を深めます。小グループでのグループ学修により他者の意見も聞き、考えを広げます。さらに学修を段階的に発展的に繰り返し、専門知識を活用した問題発見や問題解決の方法の修得を図ります。(知識・理解・技能、思考力・判断力・表現力、態度・主体性)

(教育評価)

- 1 履修した各講義や実習科目においては、シラバスに明記された評価方法に従い、学期末毎の学修到達度の評価を行います。不合格の者には再試験を課し、その合格を求めます。
- 2 1年次において、修得すべき全単位を取得した場合を進級とします。
- 3 2年次期末に、介護福祉士国家試験受験科目について、それまでの水準を修得しているかを確認する「卒業試験」を行い、不合格の者には再試験を課し、その合格を求めます。
- 4 専門発展科目の医療的ケアでは、「福岡医療短期大学喀痰吸引等研修にかかる筆記試験事務規程」に基づいた履修要件を設けています。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

本学科では、建学の精神を基本理念とし、下記（Ⅰ）の目指すべき人物像に向けて本学の学位プログラムの課程を修め、すべての単位取得を充たした上で、医療、保健、福祉を取り巻く環境の変化に対応した専門知識及び技能を修得し、超高齢社会の一翼を担う介護福祉人材として、下記（Ⅱ）の能力を身につけた者に卒業認定を行います。

Ⅰ 目指すべき人物像

介護福祉士のリーダーとして、生涯にわたって自ら学び、介護実践の根拠に基づいた尊厳を支えるケアを実践しながら、保健福祉の向上のために貢献できる人物。

Ⅱ 修得すべき能力

（知識・理解）

- 1 豊かな教養と人間性を持ち、さまざまな利用者に対応するための基本的な福祉、医療、保健の知識を体系的に理解することができる。

（思考力・判断力）

- 2 多様な情報や知識を論理的に分析、考察することができる。
- 3 科学的思考力を持ち、職業生活や社会生活で新たな問題を発見・解決することができる。

（態度・主体性）

- 4 福祉の現場において必要とされる自分の役割を理解することができる。
- 5 実践的な生活支援や自立支援のための取組を推進することができる。
- 6 生活支援専門職としての自己管理能力や主体性を発揮し、社会や他者のために責任ある行動をとることができる。
- 7 利用者、家族と円滑な対人コミュニケーションをとることができ、多職種との連携や協働を行うことができる。

（技能、表現力）

- 8 根拠や理論に基づいた介護実践のための知識や技能を活用し、利用者の状況に応じた生活の質（QOL）の向上を図ることができる。